

# サクラの外來害虫 “クビアカツヤカミキリ” 被害防止の手引



埼玉県環境科学国際センター

# 目次

1. クビアカツヤカミキリについて	..... 1
2. 国内および県内への侵入状況	..... 2
3. 被害実態	..... 3
4. 被害確認の方法	..... 6
5. 防除の方法	..... 6
6. 成虫拡散防止ネット装着法の検討事例	.....8
7. サクラ以外の樹種の被害事例	.....8
8. お願いとお問い合わせ	..... 9
9. 情報発信	..... 9

# 1. クビアカツヤカミキリについて

## 1) 属性

- \* カミキリムシ科ジャコウカミキリ属に属する。
- \* 学名は、*Aromia bungii* (アロミア・ブンギ)。
- \* 特定外来生物に指定され(平成30(2018)年1月)、飼育や運搬などは原則禁止。

## 2) 形態

- \* 成虫の体長は25-40mm程度。
- \* 成虫の前胸背板は明赤色で、他は光沢のある黒色。前胸背板の側面に頑丈なとげ状の瘤(こぶ)を一对持つ(図1と図2の青矢印の部分)。
- \* 触角は黒色で、オス(図1)の触角は体長より長く、メス(図2)の触角は体長よりも短い。



図1 オス



図2 メス

## 3) 生態

- \* 自然分布は、中国、モンゴル、朝鮮半島、ロシア極東、台湾、ベトナム。
- \* サクラ、ウメ、モモ、スモモなどの主にバラ科の樹木を加害する。
- \* 幼虫(図3)は、樹木の生木(辺材や心材)を摂食し、フラス(フンと木屑が混ざったもの)(図4)を排出しながら、樹体内で2~3年かけて成長し、蛹(さなぎ)となる。
- \* 幼虫の活動期は春から秋にかけてであり、この間にフラスが排出される。
- \* 蛹は6月中旬から8月上旬に成虫となり、樹体外に脱出する。
- \* メスの成虫は交尾後、幹や枝の樹皮の割れ目などに産卵する(8~9日後に孵化する)。1頭あたり1000個近く産むこともある。
- \* 成虫の寿命は、野外では1ヶ月程度。成虫での越冬はしない。



図3 幼虫



図4 フラス(褐色のカリントウ状で比較的硬い)



### 3. 被害実態

1) 樹体に幼虫が侵入すると、根元に大量のフラスがばらまかれて溜まる場合が多い(図6)。また、フラスは、木の葉に絡みついている場合(図7)や、幹が二つに分かれる股の部分に溜まっている場合(図8)などもある。これらのことから、フラスは、排出されたものが上から落ちてきて溜まるものと考えられる。



図6 サクラの根元に散乱したフラス



図7 木の葉に絡みついたフラス



図8 幹が二つに分かれる股の部分に溜っているフラス

2) フラスが溜まっている場所の上方の幹や枝には、フラス排出孔(図9の黄色矢印)が認められ、そこから挽き肉のようにフラスが排出される。



図9 フラス排出孔(黄色矢印)の確認事例

3) 1頭の幼虫による樹体の摂食範囲はかなり広く(図10)、被害は心材にまで至る(図11)。



↑ 図11 幼虫に心材まで摂食されたサクラの樹体断片

← 図10 サクラの樹体に侵入した1頭の幼虫による摂食範囲  
(樹皮を剥いて内部を露出させると、幅約40cmにわたり樹体の表層が摂食されていた。幼虫は4cm程度まで成長しており、心材にまで侵入していたところを捕殺された。)

4) 幼虫は樹体を摂食しながらその内部で2～3年を過ごし、蛹になった後、樹体表面に開けられた成虫脱出孔(楕円形で、長径が2～3cm程度)(図12)から成虫となって樹体外に脱出する。1本の樹体に複数個体の幼虫が侵入・羽化すると、その内部は激しく被害を受け、地上部への水揚げなどが悪くなることから、樹体が枯死することもある(図13)。

⇒ 早期発見、早期防除が必要！！



図12 サクラの樹体に生じた成虫脱出孔(黄色矢印)の確認事例



図13 サクラの樹体に生じた成虫脱出孔(黄色矢印)と枯死

## 4. 被害確認の方法

### 1) フラスの確認

- \* 根元などに大量に散乱・堆積するフラス(図6、図7、図8)があるか否かを確認する。  
フラスは、通常、褐色のカリントウ状で比較的硬いのが特徴。  
→ フラスがあれば、樹体内に幼虫が生存していることを示す。

### 2) フラス排出孔の確認

- \* フラスが樹体のどこから排出されているのかを確認する。  
樹体からフラスが挽き肉状にとび出している場所がフラス排出孔(図9)。  
ただし、フラス排出孔が小さい場合は、見つけにくいことがある。  
→ フラス排出孔は、農薬を注入するときの注入口となる。

### 3) 成虫脱出孔の確認

- \* 樹体に成虫脱出孔(図12、図13)があるか否かを確認する。  
成虫脱出孔は、楕円形で、長径が2~3cm程度。  
→ 成虫脱出孔があれば、過去にその樹体から成虫が羽化したことを示す。

### 4) 樹体枯死の確認

- \* 樹体に枯死した箇所(図13)があるか否かを確認する。

⇒ 上記の4項目について確認し、被害の程度を把握した上で防除方法を検討する。

## 5. 防除の方法

1) 野外で成虫を見つけたらすぐに捕殺する。

2) 春から秋にかけて、樹木の根元などにフラスが確認された場合、フラス排出孔を見つけ、針金や千枚通しなどでフラスを取り除くとともに、そこから針金を挿入して幼虫を刺殺するか、登録農薬(商品名: ロビンフット、アクセルフロアブル、園芸用キンチョールEまたはマツグリーン液剤2)を注入して駆除する(図14)。なお、農薬を使用する場合は、取り扱い上の注意に従うこと(表2)。処理後には見回りを実施し、フラスの排出がないことを確認する。フラスの排出が確認された場合は、再度、農薬を注入する。



図14 農薬処理の事例

表2 サクラに関するクビアカツヤカミキリの防除農薬と農薬登録上の規定

薬剤名 (成分名)	希釈倍率	使用時期	使用回数	使用方法	同一成分を含む農薬の総使用回数
ロビンフッド (フェンプロパトリン)	—	—	6回以内	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	6回以内
アクセルフロアブル (メタフルミゾン)	100倍	—	6回以内	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	6回以内
園芸用キンチョールE (ペルメトリン)	—	—	—	食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射	—
マツグリーン液剤2 (アセタミプリド)	50倍	発生初期	5回以内	食入孔に注入	5回以内
バイオリサ<カミキリ>スリム (ポーベリア ブロンニアティ)	—	成虫発生初期	—	主幹又は主幹の分枝部分に巻き付ける	—

3) フラス排出孔から大量で大型のフラスが確認された場合、羽化時期が近づいていると考えられるため、フラス排出孔から農薬注入などを実施するとともに、成虫の拡散防止のため、羽化期(6月から8月)前に、樹木の幹にネット(目合4mm以下の防鳥ネットなど)を、1周から1周半程度巻き付ける(図15)。なお、ネットを巻き付ける前に、樹体の幹または幹の分枝部分に、登録農薬のバイオリサ<カミキリ>スリム(昆虫寄生性糸状菌製剤)を巻き付けておくと効果的である(図16)。成虫が、同製剤に触れて糸状菌に感染すると、カビが生えて死に至る。ただし、農薬を使用する場合は、取り扱い上の注意に従うこと(表2)。ネットを巻き付けた後は、定期的に見回り、羽化した成虫がネット内であれば捕殺する。



図15 農薬処理とネットの巻き付けを併用した事例



図16 バイオリサ<カミキリ>スリムを巻き付けたサクラ(この上にネットを巻き付ける)

4) 樹体に複数のフラス排出孔や成虫脱出孔が確認され、特に枝などに枯死が確認された場合は、伐倒処理することが望ましい。伐採した材には、幼虫が潜んでいる可能性があるため、必ず焼却処分する。また、土中に残った切り株に穴が開いている場合は、成虫が脱出しないように、ネットを被せておくなどの処理が必要である。

## 6. 成虫拡散防止ネット装着法の検討事例

成虫拡散防止ネットの装着法については、現場にある樹木の樹形によってさまざまであるが、当センターでは、成虫を拡散させないという観点からその方法を検討したので、参考までに、一例を図17に示す。この方法では、既製の防鳥ネット(縦3m×横4mで目合4mm)を用いた。ネットの一端を数回折り返し、ジャバラを作りながら針金で串刺しにする。これを10cm幅のスポンジ(厚さ5mm)を巻き付けた幹に取り付けた。ネットのもう一端は、スカート状に下方に垂らし、地面から飛び出した根をできる限り覆うように広げた。ネットの端は内側に数回折り返し、U字杭を地面に打ち込んで留めた。



図17 成虫拡散防止ネットの装着事例

## 7. サクラ以外の樹種の被害事例

埼玉県内では、サクラ以外にも、これまでに、スモモ(図18と図20)やウメ(図19)で被害が確認されている。



図18 スモモの幹から排出されたフラス



図19 ウメの幹から排出されたフラス



図20 スモモの樹体に生じた成虫脱出孔(黄色矢印)と枯死  
 (1本の樹体に複数個体の幼虫が侵入・羽化したため、  
 樹体の一部が枯死したものと考えられる。)

## 8. お願いとお問い合わせ

クビアカツヤカミキリの成虫や樹体から排出されたフラスを発見した場合は、それらの写真を撮って、市町村の環境関連部局または環境科学国際センター(以下の連絡先)までお知らせください。

また、この手引とクビアカツヤカミキリに関するお問い合わせは、環境科学国際センターまでお願いします。

<連絡先> 埼玉県環境科学国際センター 自然環境担当  
 〒347-0115 埼玉県加須市上種足914  
 TEL: 0480-73-8331(代表) FAX: 0480-70-2031  
 E-mail: [g738331@pref.saitama.lg.jp](mailto:g738331@pref.saitama.lg.jp)

## 9. 情報発信

1)クビアカツヤカミキリに関する情報を、以下のURLから発信します。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/center/kubiaka.html>

2)クビアカツヤカミキリの生態と防除について、出前講座を行います。詳しくは、以下のURLをご覧ください。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/cess/shiryo/cess-kouza-demaekouza2016.html>

“サクラ被害防止プロジェクト”

Stop

クビアカ

みんなでサクラをクビアカツヤカミキリから守りましょう！



埼玉県マスコット  
「コバトン」と「さいたまっち」

サクラの外来害虫“クビアカツヤカミキリ”  
被害防止の手引

発行者：埼玉県環境科学国際センター  
〒347-0115 埼玉県加須市上種足914

TEL: 0480-73-8331(代表)

FAX: 0480-70-2031

E-mail: [g738331@pref.saitama.lg.jp](mailto:g738331@pref.saitama.lg.jp)

発行年月：平成30(2018)年1月 第1版  
平成30(2018)年2月 第2版  
平成30(2018)年8月 第3版